

高知の舞子さん 復活に人気

四国 今景色



三味線の音にのせてあでやかに舞う。踊りに合わせて、背中の帯が優雅に揺れる。立ち居振る舞いのなまめかしきとは対照的に、その表情はあどけなさも。高知市唐人町の料亭「浜長」で、舞子さんが人気を集めている。

舞子さんが宴席をにぎわせていた。娯楽が多様化し、高知にも都会の流行や生活様式が押しよせると、伝統の「お座敷遊び」は姿を消した。だが、二十数年ぶりの復活で、苦しいのは、舞子さんの養成に労した元・舞子だった年配の芸者らが新人を相手に踊り、し

評判広がり 県外客も

時、「お客様に本当の日本のな遊びを楽しんでもらおう」と、客寄せサービスのため舞子さん復活を企画した。

高級料亭。宴席を設けるには、一人最低一萬二、三千円が必要。舞

「浜長」には、今三人の舞子さんがおり、宴席の客に舞う。また衣装と酌をサービスする。一席にや帯、かつらつき約三十分で、三味線を持つは京都から取った芸者に付き添われ座敷から座敷へと移動。

どんなに仕事が大変でも、いつも笑顔をやさず、優雅さを忘れない。

「浜長」の清本正治営業部長によると、伝統復活に客も大喜びで、宴席の注文も増えたという。最近はお口コミで評判が広がり、県外からわざわざ訪れる客もいるという。

座敷から座敷へと移動する舞子さん。どんなに忙しくても笑顔を絶やさない
＝高知市唐人町の料亭「浜長」で